

## 令和6年10月 区長記者会見【テキスト版】

### 高際区長

本日もどうぞよろしくお願いいたします。それでは私の方から何点かご説明をしたいと思います。

一つ目は豊島区教育大綱でございます。手作り感が満載でございますけれども、豊島区教育大綱を10月1日に策定しました。

教育大綱というのは、区の教育の基本的な方向性を示すものということで、首長と教育委員会の方で協議をしながら作るものということになっております。

豊島区もこれまでありましたけれども、教育委員会が定める教育ビジョンと考えを一にしているのであれば、別途教育大綱単品で出さなくてもいいよということになっております。そういう考えもあるのですけれども、私は区においてはやはり子どもたちの育ちというものをものすごく大きな柱に置いているので、区長として教育ビジョンは別に定めたいということを当初から私は思っておりまして、この度、初めて教育ビジョンとは別の形での教育大綱を豊島区として作ることになり、10月1日に策定したところであります。

策定にあたりましては多くの方のご意見を聞きたいということで、子どもたちにも聞きましたし、保護者、幼稚園に出向いて、幼稚園のお子さんがいるお母さまたち、また小学校・中学校のPTAの方々、教職員の方々、地域の皆さんなどの声をたくさん集めまして、どういうところに課題があって、区にどんなことを求めているのかということ、もう徹底的に聞いた上で、私、子どもレターもやっていますので、子どもの声も日頃から聞いているということもあって、その上で区長としてどんな子に育ってほしいのかというようなことの思いを込めまして、教育大綱を策定したところであります。

豊島区にはいろんな特徴があります。たくさんの文化と資源がある。また、多くの国籍の方が住んでいる、多様性があると。そうした観点からの子どもたちの経験・体験そうしたものも盛り込んだ育ちを応援したいというような思いも込めております。

一つ目につけましたのが、「元気でたくましく個性や能力を伸ばしていける子ども」、これ私本当に思っている事を定めまして、4つの方針そして15の取り組みを定めました。子どもたちから地域の方までいろんな方々にこれから読んでいただきたいと思っているのでできるだけわかりやすく、あんまり長くならないようにということで、言葉遣いなどにも相当考え抜いて作ったものであります。

次のページに出ていますのが、4つの方針ということで、1つ目は幼児教育もしっかりやっという幼児期からの切れ目ない教育の観点、それから多様性、どんな環境にある子ども元気に育てほしいという思いから、国籍、また障害があろうがなかろうが、親御さんの状況がどうであろうが、自己肯定感・自己有用感を持ちながら育てほしいという思いを方針の2に入れております。それから3つ目がさっき申し上げました地域の魅力や芸術文化。今豊島区文化だけでなくスポーツでも子どもたちを全力応援していますけれども、そうした体験をできるだけ多く味わってもらいたいという思い。そして四つ目はですね、今学校現場が本当大変だということが言われております。子どもたちの育ちを学校だけじゃなくて、地域みんなで応援してくださると。そして教員・学校の負担もできるだけどんな形で行政として軽減できるのかということを考えていこうというこの4つを大きな方針に定めております。

今後これをもとに教育委員会の方で新しい教育ビジョンを作る、そして全ての学校、あるいは地域も交えてですね、子どもたちを応援する体制を作っていくということになります。先日は、小中幼稚園の校長先生、幼稚園園長先生が集まる会で直接この考え、思いについてもご説明をして共有をしていただいたところであります。

二つ目がですね、ファミリーシップ制度の導入を11月1日にできる運びとなりました。

今第3回区議会定例会が行われておりまして、ここでファミリーシップ制度を盛り込みました男女共同参画推進条例の改正条例を上程しております。

最終議決はですね、本会議最終日になりますけれども、9月30日総務委員会でお諮りをいたしまして、全会派一致で可決に賛成をいただいたところであります。豊島区では、平成31年の4月からパートナーシップ制度というのを導入しております。

多様な性自認・性的指向の方々の気持ちに寄り添って、日常生活の支援などに取り組んできたところですけれども、当事者の皆さまからも、自分たちの子ども、あるい

は自分たちが年を重ねていくと、私もそうですけど、やっぱり親のこと、いろんな心配事、やらなきゃいけないことというのでも出てまいります、なので、パートナーだけじゃなくて、子どもや親、そこも交えたファミリーという形での取り組み・制度の導入をというようなお声がありました。

そうしたことから今回23区では3番目になります、そして条例化ということでは本区で初めてになります、男女共同参画推進条例を改正したファミリーシップ制度の導入を11月1日の予定で進めております。

当事者の方には今のパートナーシップ制度と同様に証明書、それから携帯のカードをお出しします。それにより近親者の方が入院する、あるいは施設の入所の際に、親族として連絡をもらえたり面会ができたり、そうしたことで日常生活の利便性が向上するものと思います。

また、当事者の皆さんからは、やはり精神的な安心感が欲しいんだというようなお声があります。今もパートナーシップ制度の登録をしてなくても、できることっていろいろあると思いますけれども、やはりそこでパートナーシップで認められるっていう、ファミリーシップとして、申請をして証明書がもらえる、そうしたことで非常にですね、心の安定感、安心感が違うんだというようなお声がありましたので、そこに応えていきたいというふうに思っております。

実際に利用できるサービスは、こちらに示しました23あります。お子さんに関しましては、母親学級にもご一緒に入れますし、ファミリーサポートセンターの利用とか、里親の認定登録・保育園の送迎などがございます。また、今回新たに外国人学校児童生徒保護者負担軽減補助、保護者が外国人の方でお子さんを外国人学校に入れてらっしゃる方に対して補助しているものですが、それを今回可能なサービスに加えました。

そして親御さんの観点からいたしますと、特養ホームへの入所の申し込み。高齢者の方に対して豊島区がいろんな支援をしておりますけれども、その中でも理容美容の助成、緊急通報システム、紙オムツの支給などについてもご利用がいただけます。今回は高齢者のオムツ購入費の助成、これを11月1日を機に対象サービスに加えたところでもあります。

その他ございます通り公営住宅への入居の申し込みなども可能であります。

今後はですね、この23をどこまで増やせるかということを全庁でもう1回ですね、

いろいろなサービスの中身を見まして、基本的には特段何か国や東京都の縛りがあってこうでなきゃできないというもの以外については対象にできればいいなというふうに思っております。

次はですね、医療的ケア児の相談窓口を10月1日に開設いたしました。本庁舎4階障害者福祉課に専用の窓口を設けたところであります。

医療的ケア児ですので、人工呼吸器をつけていらっしゃる、経管栄養をする、また痰の吸引などの医療的なケアが日常的に必要なお子さんについてになります。

医療的ケア児をどう支援するかという協議会を設けておりまして、当事者の方などにも入っていただいて、いろんな議論をしてきたんですけども、やはり医療的ケア児がいらっしゃるご家庭においては、ご相談の内容が本当に多岐にわたります。

医療はもちろんですけれども福祉・保健、子育て支援、それから学校のことをなどなどですね、多職種の連携が不可欠であって、やはり相談の仕方がですね、これ困ったなっていうときどこに相談、こっちに行って、こっちに行ってっていうのが本当大変というお話もありまして、一本窓口を設けてほしいというようなお声に応えていきたいということで設けております。

平日の8時半から夕方5時まで。ご本人ご家族、それからの支援にあたられている関係機関の方からのご相談もお受けいたします。

こちらにありますコーディネーターは、保健師でありまして、本年4月に医療的ケア児のコーディネーターとして配置をしました。配置をして相談窓口の開設の準備あたってまいりまして、10月1日に、オープンの開設に至ったところであります。

次ですけれども、今年の区民提案事業の状況についてであります。今年はですね、デジタルと防災の二つのテーマに絞りまして、ご提案をお受けいたしまして、78件いただきました。その中から9件厳選をして区民の投票をいただきまして、1521票頂戴し、得票の多かった6件、こちらにございます6件について、今、担当の部署で来年度の新規事業の構築に向けて検討を進めているところであります。

内容は事業名ご覧いただければわかるかと思いますが、行政サービスいろんなものがあるけれども、そのサービスの内容とか申請をぱっとわかるようなサイトが

欲しいとか、保育園、お父さんお母さん忙しい中での連絡手段などオンライン化してほしいとか、それから防災についてもみんなで歩いて防災のマップを作ろうなど、こちらの6つについて新しい事業化の検討を今進めているところであります。

こちらの区民提案については、昨年同様若い方たちからの参画が多くて、本当に嬉しいなと思っています。ご提案も30代以下の区民の方が3割、40代まで入れると半分、ご投票いただいたのも30代以下の方が4割を越してしまっていて、本当に区政参画というところで若い方たちの声をどんどん上げ取り入れていきたいと思っているので大変嬉しく思っているところであります。

次はご報告で昨年度の区民提案をいただいたもの二つ、その後の状況をご報告したいと思います。

一つはベンチです。ベンチプロジェクトというのを始めておりまして、今、着々と進んでおります。このベンチプロジェクトの狙いですが、ここに書いてある三つなんです。

今豊島区は心も体も元気なウォーカブルなまちづくりというのを進めております。障害があっても、車椅子であっても、ベビーカーと一緒にあっても、どんどん出かけたくなるようなそんなまちを作ろうっていうことを思っていますし、また歩くことで健康もどんどんキープしていこう。そして外に出ることで人と繋がっていこうということでウォーカブルなまちづくりを目指していますけれども、ベンチをいろんなところに置くっていうことで、ちょっと疲れたら休めるし、休んでいるときにお隣の方とお話したり、そんなコミュニケーションもできるといいなということで進めております。

具体的には次のページで四つご紹介をしたいと思います。

一つは子どもたちと一緒にベンチを作ろうということで、11月2日豊島文化の日週間で、後ほど資料をつけておりますけど、「みんなの区民ひろばフェス」という区民ひろばのお祭りがあります。

ここで子どもたちと一緒に椅子を作っちゃおうということで、色を塗ったりいろんなことをして、ここで作った椅子を区内に区民ひろば26ヶ所ありますけれども、そこに置いていこうというものであります。

二つ目はですね、企業にいろいろご協賛をいただくプロジェクトで、ここのベンチのプロジェクトのロゴもチームとしまのメンバーが無料で作ってくれました。マーブルデザインさん、無料で作ってくれたかわいい、寄り添って座っているっていうものなんですけれども、こういうマークをベンチプロジェクトのベンチには貼ってまいります。その他も西武池袋本店さんからは椅子をご提供いただいたり武蔵塗料さんからは塗料をご提供いただいたり、チームとしま中心に企業の皆さまのご協賛をいただきながら進めております。

三つ目はですね、ベンチをどこに設置するかっていうのを探して決めるプロジェクトであります。今年度中に50ヶ所、50台設置を目標としていまして、今、17ヶ所置いております。

日頃高齢者の生活支援をしているコミュニティソーシャルワーカーの皆さんなどともまちを歩いて、ここにあると便利なんじゃないかっていうような場所探しをして、そこにふさわしい形のベンチの設置を進めています。

そして最後ですけれども、古くなっちゃったベンチ、みんなで綺麗にしようよということで、取り替えたり色を塗ったり、これも区民の皆さんと一緒に進めているものであります。

次にマップ、4月から着々と進んでおりまして、ピンクはもう置いた場所ですね。それからブルーはもう直しましたというもの、それから緑はこれから頑張っておきますよというものであります。いろんな場所に置いておりまして、置く場所によって形とか、シャープにするのか、かわいくするのかなど工夫しながらやっているところでもあります。

区民提案でもう一つご紹介をしたいのが空き店舗です。

空き店舗は本当にいろんな商店街残念ながら増えていて、なんとかしたいなっていうのを商店街の皆さんとお話をしていたところでしたけれども、区民提案がありましたので、空き店舗を核に商店街を活性化するプロジェクトをやろうよということで始めました。実現できるかどうかっていうのが本当に心配で、商店街連合会の会長さんも頑張るけど大丈夫かな、なんておっしゃっていましたがけれども、なんと9件の応募がありまして、審査会を経て、まずは3件オープンに着々と進んでいるところであります。

まずはこの支援事業ですけれども、区民提案を受けて事業化するときにはやりましたのが、補助金の交付と専門家による支援と2本立てにしています。

なんでもかんでもそこに入れていいっていうふうには思ってなくて、入っていただいたときにその地域のその商店街とかそのまちと一緒に、コミュニケーションとりながら、その地域にスポッとちゃんとはまり込んでほしい、地元一緒になってその地域を盛り上げるような空き店舗の展開になるといいなと思っていたので補助金としては賃借料とか、店舗の整備費もお出ししますけれども、ポイントとしてはその地域に詳しいコーディネーターが伴走して応援しますというものであります。

コーディネーターとしては足立さんと日神山さんお2人が手を挙げてくださって、この2人が応援をしてくださっております。足立さんはですね、東長崎の空き店舗活用、いろんなものを取り組まれていて、私も大好きなカフェの「miamia(マイアマイア)」っていうユニークで人気のカフェありますけどもそこだとか、いろんなところで店舗の活用をやってきた方。それから日神山さんも有名で、株式会社シーナタウンの日神山さんということで、西池袋椎名町を中心にいろんな店舗の企画・設計・リノベーションを得意とされて展開をされている。このお2人にコーディネーターとして付いていただきまして、次のページにございますけれども1店舗がオープンをいたしました。

東長崎、行ってまいりましたけれども、とても素敵なお店であります。カウンターがありまして、クラフトビールが出ていたりかわいい雑貨があったりですね。本当にあそこは良い商店街でお隣だったかな、焼き鳥屋さんがあったりですね、そこで買ったやつを持ち込みOKなんですよってお話もありましたけど、本当に自然に地域に馴染んで展開をされているなというふうに思いました。オープンの日は、まさに地域の方々、いっぱいお招きをして、みんなでお祝いしたというようなことを聞いております。

そして第2弾、第3弾も今後大塚・駒込で続きます。いずれも本当に面白いお店ですね。2店舗名は「Japanese Bistro & Cafe 東京エイジング・スパイス」さんっていうところで日本の文化を発信できるフードカフェ。どんな感じなのか早速オープンしたら行ってみたいと思います。そして駒込では、「麴・発酵・つなぐ café chocotto」さんっていうのができます。このcafé chocottoさんは開店の前に地域の人と一緒にお店の壁を塗るっていうイベントもするというので、もう本当に地域と一緒に頑張るぞというようなお店2軒が続きます。

ここでうまくいきますと来年度も同じように空き店舗を活用してそこを核に地域が少しく、お客さんが増えたり、新しい風が入ったりというような展開でできるというなど思っております。

次がですね、台湾に行ってみります。台北で行われます国際旅行博にチームとして、豊島区も入りまして、チームとして出展をいたします。

11月1日から4日、台湾台北で開催されるアジア最大の規模の国際旅行ということで、毎年40万人の来場があるということで聞いております。

こちらチームとしまの中でもですね、既に出展経験がある企業がいくつかあり、そうしたところからのご提案がチームとしまのミーティングの中でありまして、じゃあ一緒に出ようということで今回行ってまいります。

台湾は非常に親日家であり、また、年代問わず日本のアニメ漫画の人气があって世界でも第3位ということで聞いております。日本のアニメグッズなんかも結構売れるということもあって、一方、豊島区なかなかですね、インバウンドもいろいろ復活してきましたけども、国外に対する発信っていうのはほとんどやってきておりませんでしたので、今回このチームとしまで出展して、アニメコスプレの聖地池袋豊島区というのをコンセプトに、売り込んで来ようと思っております。

次のページに出ておりますのが、一緒に行く仲間であります。サンシャインシティさん始め、こうした皆さんと一緒に、ブースも通常は企業ごとにバラバラやるんですけども、チームとしまとして、大きいブースを1本作ってそこでいろんな発信をしていきたいと思っています。日本に来てもらったときに使えるような池袋マップを配ったり、動画を流したり、それとこれは多分、ここの旅行博では初めてだと思いますけど、コスプレイヤーがいろいろ宣伝したりするということにしております。

コスプレイヤーさん、後で出てくると思うんですけど、今回の池ハロなどでも活躍をいただこうということで先日4名の有名なコスプレイヤーさんに池袋コスプレ大使になっていただきました。その皆さんと私も池ハロでまたコスプレをしますけれども、その格好でこっちに行きまして5人でコスプレをして宣伝をする予定であります。

アニメ・まんが繋がりでもう一つご紹介したいと思います。アニメ&まんが聖地



SUMMIT&EXPO というのを 11月8日、9日、10日でやります。日本初開催の大規模イベントです。

日本では色んなところで、まんが・アニメに力を入れていらっしゃる自治体だったり、色んなまんが・アニメに関する事業をいっぱいやっていたり、あるいは、例えばこの右下（資料16ページ）は富山県氷見市にあります、潮風ギャラリーとって、藤子不二雄A先生のアートギャラリーであったり、あと左下のトキワ荘の上は、水木しげる記念館（鳥取県境港市）だったり、そういう色んな記念館だったり、アートギャラリーありますけれども、そういうところの皆さんが、豊島区に集結して下さって、日本全体でまんが・アニメを盛り上げていこうというサミットであります。

主催は豊島区とアニメイトさん、それとアニメーターリズム協会さんです。アニメーターリズム協会さんは、全世界の日本のアニメファンの投票を基に訪れてみたい日本のアニメの聖地というのを選定をされているところであります、本区は今年トキワ荘マンガミュージアムなど7つのスポットが認定されました。

そのように豊島区がアニメーターリズム協会さんの認定箇所が多い、聖地が多いということと、それからまんが・アニメの原点となるトキワ荘があること、またアニメイトさん始め、アニメ関連ショップがたくさんあって、まんが・アニメのファンがたくさん来ているというようなことから、第1回のこのSUMMIT&EXPOの会場に選んでいただきました。みんなで盛り上げてまいりたいと思っています。

サミットについては11月8日にとしま区民センターで行います。私も出ますけれども、関係する首長さんなどによる、パネルディスカッションなどを予定しております。

エキスポはですね、11月9日と10日、中池袋公園ととしま区民センターでいろいろなイベントをやります。

11月9日・10日は、アニメイトガールズフェスティバルという、こちらもとんでもなく大きいイベントと日程をぶつけまして、両方で盛り上げを図っていきたいと思います。

アニメイトガールズフェスティバルは今年15周年。全体で、10万人が毎年こられるという大きいイベントですけれども、そことこの日本初開催のイベントとダブルでやっていこうと思っています。

ここでは日頃は現地に行かないと買えないようなお品がたくさん出るということでございます。

鳥取県境港市は、水木しげる記念館のオリジナルグッズなど、全1万点以上販売予定だそうです。それから大分県日田市、進撃の巨人があるところですけど、そのオリジナルグッズが販売されたり、また、さっき申し上げた、氷見市では忍者ハットリくんをはじめとした、氷見市潮風ギャラリーでしか買えないものもここで限定グッズが販売されるということでもありますので、ぜひサミットもそうですが、エキスポもたくさんの方に来ていただければと思います。

そしてもう一つ、サミットの会場となりますとしま区民センター、中池袋公園、アニメイトさんの隣のとしま区民センターにカフェが実は1階にあったんですけども、今ちょっと何も入ってない状況でございます。

そこに新しいカフェが今回オープンいたします。やったださる事業者さんがなんとしても池袋ハロウィンコスプレフェスに間に合わせるんだと頑張ってくださいまして、10月24日、ぜひ皆さんも足をお運びください。

朝絞り牛乳 Café 海畑牧場という名前にふさわしい、牧場をテーマとした産地直送のカフェ。毎日ジャージー牛の朝搾り牛乳が届くそうで、それを使用したドリンクとかデザートとかお食事ができます。

また、人工芝を敷きしめてあり、非常に癒される空間でありますので、イベントの途中で疲れちゃったらぜひお寄りいただければと思います。

あと、最後はですね、安全安心に向けた取り組みをアップデートし、池袋のイメージ向上を図ります、というのをお伝えしたいと思います。

池袋はこれまでも、昔は3K といってですね、怖い・汚い・暗いと言われていたという時代から非常に官民共同で安全安心なまちづくりを進めてまいりまして、まちも綺麗になりましたし、安全安心のまちになってきていると私も思っております。

また、子育て支援を一生懸命やっていますし、公園も綺麗になったし、まちの魅力も大変高まってきたと思っていますのですけれども、いろんな区民の方の声を聞きますと、特に若い女の子、あるいは若い女の子がいる親御さんはですね、「池袋は怖い」「怖いから1人で行かないでね」と親から言われますとかですね、そういう声を実は

ここのところよく聞くんですよ。

今、豊島区基本構想・基本計画の策定中ですが、そこでも大学生と意見交換したり、外国人と意見交換したり、いろんな私自身が直接意見交換する場を設けているのですが、どこでやっても「池袋怖い」という声が出てくる。

それと区民の声でも、たばこのポイ捨てでまちが汚いという苦情も、減るところか増えております。

それと、この後また話しますが、特殊詐欺が23区で人口1人あたりワースト1という状況もある。タバコもポイ捨てだけじゃなくて、非常に受動喫煙で、何とかしてくれという声もあるし、放置自転車も増えています。

そういうようなことから、もう1回、安全安心なまちづくりというのを、チームをあげてやっていかなきゃいけないんじゃないかと。

安全安心な面もたくさんあるので、イメージだけというところもあるのかもしれませんが、実際に対策を打たなきゃいけないこともあるし、イメージだけで「怖いよ」というところがあるのだったら、「そうじゃないよ」というイメージの向上も含めた取り組みをやっていきたいなと思っておりまして、ここに書いてある関係する部署を庁内横断で対策本部を作りまして、今後はまちの皆さまとも連携しながら、安全安心に向けた取り組み第2弾になるのですかね、を進めていきたいというふうに思っているところであります。

特殊詐欺ですが、去年と比べてものすごく増えています。これは全国的にそうだと思いますが、今、豊島区において8月末現在、被害件数87、被害額が1億9,630万、前年同月比と比べますと、どれだけ増えているかというのが一目瞭然だと思います。申し上げたように、人口1人あたりだと23区でワースト1位、被害額でもワースト8位になっています。そして、被害者のうち65歳以上が人数だと83%、金額だと76%ということで、注意喚起をしていますけれども、もう全くおさまらないというような状況でありますので、ここで特殊詐欺の被害防止について、まず対策本部の取り組みの第1弾として行いたいと思っています。アナログではありますけれども、声かけをしていこうということで、被害防止の取り組みを進めていきます。

声かけサポート大作戦というアナログですが、とにかく職員、どこの部署でもまちでちょっとあれっと思うような方がいたり、また窓口でご不安そうの方がいた

り、とにかく声をかけて、全職員で区民の皆さまの被害の防止に努めていきたいと思  
いますし、また改めて区内の関係機関、企業、銀行さんだったり、コンビニエンスス  
トアさんだったり、私も出向いて、もう改めてみんなでやっていこうというような意  
識を高めていきたいと思っております。

青パト（青色防犯灯付きパトロール車）という、青いのが付いている警備のパトロ  
ールがあるのですが、青パトでも 365 日回っていますけれども、そこでも警戒を  
高めたい。

また、自動通話録音機を、高齢者の皆さまに無料で貸し出しをしております。自分  
のところへ電話がかかってきたときに録音されるわけですが、おおむね 65 歳以  
上の方に無償の貸し出しもしていますので、その PR も進めていきたいと思いま  
す。区内 3 警察署ともしっかり連携をして、取り組んでいきたいと思えます。

この後は、イベントのご紹介ですので、後でまた皆さまにはじっくりご覧いただく  
として、ご紹介だけかいつまんでやりたいと思えます。

としま文化の日、11 月 1 日になります。お手元にこのリーフレットをお配りしてい  
ると思えますけれども、いろんなものを特に 11 月 1 日からの 1 週間、集中してやり  
ますので、ぜひご取材いただければと思えます。

次に池袋ハロウィンコスプレフェス、10 月 26 日、27 日、今年はですね、前日（25  
日）の夜に池ハロナイトというのもやります。去年は、14 万人以上の皆さんがご参加  
いただきました。

豊島区のこの池ハロですけれども、非常に皆さん、きちっとしていらっしゃる、  
コスプレを楽しんでいただいております。今年もお子さんは無料で参加できるキッズ  
チケットというのも用意していますし、去年もやりましたけど、コスプレイヤーの皆  
さんが、会場周辺のゴミ拾いをするというプロジェクトもやります。私も一緒にやり  
たいと思えます。

次がさっき申し上げた、池袋コスプレ PR 大使です。インスタなんかでフォロワー  
がものすごい数いらっしゃる有名な方々が前面に出て PR をしていただきますし、あ

と今年はイケバスとコラボしまして、こういう人たちとか、コスプレイヤー、その他のたくさんのかコスプレイヤーさんがイケバスに乗って、会場を行ったり来たりしてくれるということで、多分見ていて非常に楽しいんじゃないかと思います。

メインの会場を今年から中池袋公園に変えました。みんなで楽しむコスプレはイケ・サンパークでやりますので、その間をイケバスで行ったりきたりしていただくかと思っております。

パレードもありますので、ぜひご取材をお願いしたいと思います。

また、11月1日は、都響にまた来ていただきます。赤ちゃんもきていいよというコンサートであります。

それからミステリーフェスをやります。今年は江戸川乱歩先生、生誕130周年ということで、謎解きゲームなどのイベントをやります。

また、音楽もやります。ミュージックサークル、まちの公園だとか、通りだとか、いろんところで、まちの中で音楽を聞いていただけます。

そして一番言いたいのは、としまストリートフェスというので、去年3万人、2日でまいりましたストリートカルチャーを、今年もグローバルリングで開催をいたします。開催者は、5万人今年目指すと言っていました。11月2日、3日に行います。

グローバルリングをメインにして、中池袋公園でもやりますし、東京芸術劇場の前などでもやります。5ヶ所でやります、メインがグローバルリングになります。池袋ならではのことで、アニソンに合わせて、2対2のダンスバトル大会もやるそうです。多くの若者にお楽しみいただけるんじゃないかなと思います。

それからさっきもちょっとでてきましたけれども、区民ひろばでもフェスティバルをやりますし、子どものフェスもあります。これもみんなですね、チームとしまと連携をしてやらしていただいています。

そして本当の最後ですけれども、IKEBUKURO LIVING LOOP。私これも大好きでして、ウォークブルなまちづくりを体現していると思っております。

今年のグッドデザイン賞ベスト 100 にも選ばれた取り組みであります。グリーン大通りがマルシェになります。本当に楽しいです。マーケット、ワークショップ、ストリートパフォーマンス、本当に楽しいイベントですので、ぜひぜひ取材をいただければと思います。

長くなりましたが、私からは以上です。

### 【質疑応答】

#### TOKYO MX

ハロウィン期間に関する質問で、近隣の新宿だったり渋谷だと、ハロウィン当日の夜間飲酒を禁止する措置を取ったりしている中で、池袋にも人流が増えるのではないかなっていう部分もあると思うんですけど、今年イベントを10月25日から27日に開催されるということで、イベント期間だったりとか、ハロウィン当日10月31日の治安といった部分の懸念とかがあったりするのかお伺いできればと思います。

#### 高際区長

先日、新宿と渋谷は区長さんが並んで記者会見をやられていまして、それからいろいろ SNS でもじゃあ池袋に来るなっていう書き込みがあったりしていまして、気にしないわけではないんですけども、まず池ハロの期間ですね、ハロウィンコスプレフェスの期間については、実はあまり心配していません。例年ですね、さっき申し上げたようにたくさんの方が来ていただいているんですけども、混乱っていうのはないですね。本当にコスプレが好きな方たちが、みんなで楽しもうってということで、ルールを守ってやってくださっている。逆に何か変なことが起きちゃうと、ここのフェスがもしなくなっちゃったら困っちゃうなって、多分思っているんじゃないかと思えますね。非常にルールを守ってやっていただいている、混乱はないですね。いつもハロウィンコスプレフェスのときも、実行委員会委員の皆さんが、警備は、そうは言ってもいっぱい来るんで、事件事故がないようにということで、警備体制をひいてくれています。

警察とも連携しながら、区もさっき言った青パトというのがぐるぐる回ったりして

やっていますので、そこはあまり心配してないですね。ただまあ、前夜にね、10月25日の夜あるので、多分皆さんルール守ってやってくれているので大丈夫だと思いますけども、そんな状況です。

それと10月31日は、今まで池袋でわあっときて、ご迷惑かけちゃうようなことは全くないんですけども、さすがにちょっと警戒しています。

日頃から西口の駅前広場とか、グローバルリングがある西口の公園とか、24時間で警備員がいてくださったりして、青パトも回ったりしているんですね。31日の夜は、それに加えて区の危機管理の部隊も朝5時まではしっかりいろいろ見ようかなと思っていますし、日頃、豊島区全体をいろいろ、例えば大塚とか、巣鴨の方とかぐるぐる回っている青パトとか、警備員の方を少し池袋に集めて、池袋にちょっと手厚く警備はしたいというふうに思っています。

また、区の危機管理のラインが所轄とも打ち合わせをしていて、何かあったらもうすぐに連携できるような体制で臨んでいます。31日は、そんな体制でやっていますんでね、どうなるかまず見なきゃと思っていますけど、一応そういうその警備の強化、あと警察とのいつも以上の連携の強化という体制で、当日を迎えたいと思っています。

## TOKYO MX

今日、財務省が財政制度等審議会の分科会を開いて、地方自治体への歳出改革の徹底を求めたと思うんですけども、それに関して豊島区としての受け止めというのを聞かせていただけたらと思います。

## 区長

すみません。そこについてはちょっと私まだ詳細を確認していないので、改めてお答えしたいと思います。

## 日本経済新聞

ファミリーシップ制度のことなんですけど、先行区は要綱で豊島区は条例というこ

となんですけど、条例化することの意義とか、何か他の先行の区とは変わるのかという点を教えていただければと思います。

## 高際区長

自治体として定めますので、しっかり議論して、審議会でも議論をいただいて、パブコメもしながらってことなので、一番思いますのは、やっぱりいろんな意見がありますよね、反対の意見もお持ちの方もおられますよ。

私たちがいろいろ審議会通じての審議とか、役所の中での審議とか、当事者の意見を踏まえて作りました、この改正案ファミリーシップ制度について、やっぱり議会でしっかり議論して審議いただきたいということが一つと、あと要綱とかですと、議会にかけずに、区長が作れちゃいますけれども、しっかりと区議会で審議をいただいて、条例化する。そうすると、私の後の区長もそんな簡単には止められない。やっぱり自治体における条例っていうのは大変重いものであるんで、もうやっていくんだと、条例化したからには、しっかり周知もしていくし、そういう該当の方が、みんなここに申請しろということをするわけではないけれども、希望の方がお使いいただけるように、全庁あげて進めていくんだという、そういう覚悟もこめまして、あえて条例を作るということでしております。

## 日本経済新聞

空き店舗の活用のところなんですけど、東京なので店舗の入れ替えは結構早いのかなと思っていて、地方自治体とかだとかこういうプロジェクトを見るんですけど、豊島区がやらなくても入るんじゃないかなと思っていて、そんなことはないんでしょうか。

## 高際区長

担当に聞きますと、空いているようでも2階に住んでいたり、新しい店にしたときは、入ってきてほしいから場所もどこでもいいってわけでもないし、なかなか適地というのかな、ここでやったらいいんじゃないかっていう空き店舗を見つけるのに、えらい苦労したというのは聞いています。



今回、東長崎のところに行きましたけれども、駅出て正面の道を行って、あの角地っていうのかしらね、すごい一目につくいいところが、ぱっと空いていたと。逆にそこが空いていることで、商店街がなんか寂しく見える。1本道行ったところのすぐ目立つところが、空き店舗っていうことで、まちの元気がないように見えるところに、こういう、かわいらしい店ができて、明かりがついている、人が入っているっていうことが、すぐまちの元気につながるんだということを地元の方もおっしゃっていましたので、どこでもいってわけでもないところが難しいかなという感じがいたします。

結構空き店舗は、残念ながらいくつも、かなりでてきているのは実態ですね。

## 朝日新聞

ファミリーシップ制度に関してなんですけども、先行する足立区や世田谷区は21年2と22年に相次いで導入しているんですけども、豊島区がこれを当時ではなくて、この先でもなくて、なぜ今これを導入しようと思ったのか。そこについてご説明いただいてもよろしいでしょうか。

## 高際区長

日頃からそういう当事者の皆さまと接している部署としては、多分早くやりたいなと思ってたんじゃないかと思います。

実際は、昨年度の議会でこうしたところの取り組みを区はやらないんですかというようなお声が出て、そうしたことも一つのきっかけになりまして、プラス去年の後半から新しい基本構想・基本計画に向けての検討がスタートしていて、その中でやっぱりいろんな意味での多様性っていうのを認められる区でありたいという思いが私もすごく強くて、ここはもう、もうすぐやりましょうということです。だから、本当はもっと早くやりたかったんですけども、審議会もかけ、パブコメもかけということで、このタイミングになりました。

## 朝日新聞

実際、今現時点で、ファミリーシップを利用するためには、パートナーシップにまずは登録が必要かなと思うんですけども、現時点のファミリーシップ制度を利用でき

る資格者といえますか、対象者数は何組ぐらいいらっしゃいますでしょうか。

## 高際区長

いきなりファミリーシップでも OK ですけれども、今現在でパートナーシップをご申請いただいている方は、71 組です。

## 朝日新聞

主な効果として、日常生活の利便性の向上や精神的安心感といった、いわゆる直接的な効果と言いますか、例えば他の自治体ですと事実婚と同様に住民票の隣に（未婚）とつけたりする、見届けですかね、とするそういったことも取り組まれているようなんですけど、その辺りは行政上の何か踏み込んだ部分とかありますか。

## 高際区長

戸籍の見届け(夫)(妻)みたいなのところについては、別途考えたいなと思っておりますけれども、今回のこのファミリーシップ制度については、パートナーシップもそうなんですけど、事実婚というのは対象に入れていないです。

## 朝日新聞

対象に入れなかった理由っていうのは。

## 男女平等推進センター長

パートナーシップができたときに、当事者の方からの請願という形で始まりました。そのときにパートナーの方々が全く権利ですとか、2 人の関係を認めるものがなかったっていうところから入れたという経緯がございます。

ですので、事実婚の方っていうのは、いろいろ法律婚を選べるっていうことですか、サービスの的にこのサービスが使えるっていうような状況もございますので、事実

婚については国ですとか、他の自治体の動向を見ながら考えていきたいというようなところでございます。

## **TOKYO MX**

ハロウィンについてもう1点だけお伺いさせていただきます。ハロウィン当日に路上飲酒の規制はされないということだったんですけど、何かごみ箱を増やしたりとか、交通規制をするといったとか異例の措置というのをとられる予定はありますでしょうか。

## **高際区長**

ないです。今後いろんな規制も考えなきゃいけないような事態にならないことを願っていますけれども、いろんな規制はもう最終手段かなと思っていて、まずはまちの関係者とみんなです、いろんな呼びかけするとか、そういったところから取り組んでいきたいなと思います。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)